

ネットイーグルCAD56台導入

生産性向上、多様なニーズへの対応図る

原田木材

原田木材(熊本市、原田実生社長)と協同組合熊本ランベックス(同、同代表理事)は熊本、福岡でのプレカット加工機の増設、更新に伴い、ネットイーグル(福岡市、祖父江久好社長)のプレカットCAD56台を導入した。生産性の向上と構造計算、特殊加工などへの対応強化が目的で、CAD人員を増やさず、生産拡大とサービスの向上を図る。熊本県で拡大する震災復興住宅需要に対応するとともに、将来的な需要収縮局面での競争力強化につなげる。



握手する原田社長(右)と祖父江社長

原田木材の一般物件の入力はネット本社及び福岡事業部、協同組合熊本ランベックスの営業、CAD担当者により各1台導入した。従来は自社オリジナルの「ランベックスCAD」を活用していたが、

将来的な需要縮小局面を見据えれば非住宅需要の開拓も欠かせない。入力作業そのものはランベックスCADも変わらないが、エラーチェックや出力はネットイーグルCADのほうが迅速で、生産性の向上が見込める。特に梁せいチェックや壁量、偏心率、N値などの計算はCADデータを使って合理的にこなせるうえ、3Dパースによる収まりの確認など非住宅向けの特種加工への対応も充実している。めまぐるしく変化する需要環境に対応するためには、ネ

ットイーグルCADへの切り替えが得策と判断した。

熊本では拡大する復興需要への対応を急いでおり、平安コーポレーションの横架材加工機と柱・東加工機を増設。構造材の加工能力を従来の2シフト月間8000坪から同1万2000坪に引き上げた。併せて3台目となる乾式木材保存処理装置を導入し、土台と外周柱の保存処理能力も高めた。

一方、福岡ではラインを全面更新し、6月から横架材加工機、柱材加工機、5軸加工機を新規導入する。既に外注を合わせた供給量

は月間5000〜5500坪まで拡大しており、自社加工能力を現状の月間2500〜3000坪から同3000〜3500坪に引き上げる。熊本工場は地の復興需要で手いっぱいだが、将来的には人口の都市部への集中により福岡の需要が拡

大すると見て、双方で補完できる体制を構築する。

原田社長は「震災後は安全・安心に対するニーズが高まる一方、職人不足による労務費の高騰など新たな課題も生じている。構造計算や保存処理などの性能向上、生産合理化、新規事業展開を進め、様々な課題に対して原田木材に相談したら何とかなると言われる会社にした」と意気込む。

ネットイーグルの祖父江社長は「多様なニーズに対応し、原田木材の事業展開をサポート面から全面的に支援していく」と話す。